

介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会（報告書 A 4 判 215 ページ）

事業目的

介護過程とは、「利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセス」である。介護過程は、養成校と実習施設が両輪となって、介護福祉士としての専門的知識と技術を修得できるよう教授・指導している。しかし、養成校により修学年限が異なることから、介護過程の教授の流れ、実習に行く時期等は一律ではない。介護過程の教授の方法は養成校によって違い、また、介護過程の指導や実践も施設・事業所等で違いがある。しかし、養成校で学んだ介護過程を、介護福祉士として施設・事業所等で活用できるようにしていくためには、養成校と施設・事業所等が介護過程について共通の理解を持つことが重要である。

介護福祉士は介護福祉の専門職として介護職チームの中核的な役割を果たし、認知症高齢者や高齢単身世帯等の増加に伴う介護ニーズの複雑化、多様化、高度化等に対応できる介護福祉士を養成する必要がある。カリキュラム改訂により、これらを実現するためには「介護過程の展開」を実践できる力が重要であることが明示された。本調査研究事業においては、介護過程の教授法について研究を行い、介護福祉士養成教育や介護現場における介護過程の展開の実践力の向上を図ることを目的とする。

なお、本調査研究の成果として作成を予定していた「手引き」については、報告書「第Ⅱ部 介護過程の教授と指導の事例」としてまとめた。介護過程は、養成校と実習施設が両輪となって介護福祉士としての専門的知識と技術が修得できるよう教授・指導するものである。しかし、養成校により修学年限が異なることから、介護過程の教授の流れ、実習に行く時期等が一律ではない現実がある。したがって、「手引き」とすると活用が難しく、活用が限定的になる可能性が指摘された。そこで、各養成校がそれぞれの教授や指導の段階、目的にあったかたちで参考とできることを目的とし、いくつかのポイント（課題）に対応する「事例」を整理・掲載することとした。

事業概要

（１）検討委員会の設置

介護施設関係団体、職能団体、養成校等の関係者により構成される検討委員会（委員 8 名）を設置し、調査研究の方向性や方法等を検討。

（２）作業部会の設置

養成校の教員等により構成される作業部会（委員 15 名）を設置し、各種調査の企画と実施、事例集作成等を実施。

（３）養成施設を対象としたアンケート調査の実施

介護過程の展開の教授に焦点をあて、養成校における教育方法や内容等につい

て現状と課題を把握するとともに、具体的な教育事例、養成校と介護実習施設との連携等の実践事例等について情報の収集・分析を行うことを目的に実施。

実施概要：日本介護福祉士養成施設協会会員 361 校を対象

郵送及びメールにて調査実施

回答数 128 校、回収率 35.5%

(4) 介護実習施設を対象としたヒアリング調査の実施

介護実習施設における介護過程の指導、養成校との連携について実態や課題、指導の工夫について把握することを目的に実施。

実施概要：5 地域（北海道／仙台／東京／大阪／熊本）にて 6 回実施

合計 17 名の介護実習指導者を対象

グループインタビュー方式で実施

(5) 研修会の実施

既述の 2 つの調査から得られた介護過程展開の教授と指導の課題及び工夫事例等を踏まえ、養成校と実習施設が連携し、学生指導を行うことが重要であるという認識のもと、介護過程の教授法や実習指導のヒントや工夫について、養成校の教員と介護実習指導者等が共に学びあう研修会を調査研究の一環として実施。

実施概要：仙台／東京／大阪／広島／福岡の 5 会場で共通プログラムにより、実施。

調査研究の過程

開催（実施）	日時と場所（期間）	内容
アンケート調査	調査期間： 令和元年7月25日～8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・養成施設対象アンケート調査 （介護過程の展開の教授に関する調査） ・令和元年8月現在、日本介護福祉士養成施設協会会員361校（375学科・課程）を対象に調査を実施
打ち合わせ会	令和元年9月3日（火） 17：00～19：00 コインスペース五反田駅前店	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業について ・作業部会の運営について ・養成施設対象アンケート調査について
第1回作業部会	令和元年9月13日（金） 14：00～19：00 ビジョンセンター八重洲南口701	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業について ・作業部会の運営について ・養成施設対象アンケート調査について
第2回作業部会	令和元年9月14日（土） 10：30～15：30 ビジョンセンター八重洲南口704	
第3回作業部会	令和元年9月29日（日） 10：30～16：30 ビジョンセンター東京駅前 704・706	<ul style="list-style-type: none"> ・手引きの作成について ・研修会の実施について
第1回検討委員会	令和元年10月20日（日） 13：30～15：30 ホテル東京ガーデンパレス桂	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業について ・作業部会について ・研修会の開催について
打ち合わせ会 （アセスメント）	令和元年11月2日（土） 10：30～16：00 TKP品川カンファレンスセンター ミーティングルーム8J	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の分析について ・研修会の資料作成について ・今後のスケジュールについて
打ち合わせ会 （介護過程とは）	令和元年11月3日（日） 13：00～16：00 AP品川10階I会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の分析について ・研修会の資料作成について ・今後のスケジュールについて

開催（実施）	日時と場所（期間）	内容
打ち合わせ会 （実施と評価）	令和元年11月3日（日） 13:00～17:00 TKP品川カンファレンスセンター ミーティングルーム8J	・調査結果の分析について ・研修会の資料作成について ・今後のスケジュールについて
打ち合わせ会 （アセスメント）	令和元年11月17日（日） 9:30～12:00 帝京科学大学	・研修会の資料作成について
第4回作業部会	令和元年12月14日（土） 10:30～16:30 AP品川アネックス1階D	・研修会の資料作成について
第5回作業部会	令和2年1月19日（日） 10:30～15:00 AP品川アネックス1階A	・研修会の資料作成について ・研修会アンケートについて ・報告書と手引きの作成について
第2回 検討委員会	令和2年1月19日（日） 15:30～17:00 AP品川アネックス1階・F	・研修会の実施について ・研修会アンケートについて ・報告書と手引きの作成について
研修会 福岡	令和2年1月25日（土） 12:30～17:00 福岡ガーデンパレス・宝満	・介護過程の展開に関する研修会 ～教授方法と学生指導～
研修会 大阪	令和2年1月27日（月） 12:30～17:00 TKPガーデンシティ新大阪6B	
研修会 広島	令和2年1月30日（木） 12:30～17:00 広島ガーデンパレス孔雀・朱鷺	
ヒアリング調査 （東京）	令和2年2月1日（土） 14:30～16:30 ビジョンセンター新宿1005	・介護実習施設対象ヒアリング調査
ヒアリング調査 （熊本）	令和2年2月2日（日） 10:30～12:00 介護老人保健施設 フォレスト熊本	・介護実習施設対象ヒアリング調査

開催（実施）	日時と場所（期間）	内容
ヒアリング調査 （北海道①）	令和2年2月3日（月） 18:00～20:00 札幌医学技術福祉歯科専門学校 校コミュニティルーム	・介護実習施設対象ヒアリング調査
ヒアリング調査 （北海道②）	令和2年2月4日（火） 18:00～20:00 旭川大学短期大学部3階 平野研究室	
ヒアリング調査 （仙台）	令和2年2月5日（水） 10:00～11:00 特別養護老人ホーム 梅が丘	
研修会 仙台	令和2年2月8日（土） 12:30～17:00 TKP仙台南町通 カンファレンスセンター・8B	・介護過程の展開に関する研修会 ～教授方法と学生指導～
研修会 東京	令和2年2月15日（土） 12:30～17:00 ビジョンセンター東京八重洲南口	
ヒアリング調査 （大阪）	令和2年2月16日（日） 13:00～15:00 大阪人間科学大学正雀学舎 1号館3階1306教室	・介護実習施設対象ヒアリング調査
打ち合わせ会	令和2年3月18日（水） 10:00～12:00 AP品川アネックス1階・E	・報告書の作成について

事業結果

本調査研究で実施した「養成施設対象アンケート調査」、介護実習施設対象ヒアリング調査、介護過程の展開に関する研修会の参加者（福祉系高校を含む養成校の教員、実習施設の実習指導者等）を対象としたアンケート調査などの結果から、介護過程展開の教授・指導に係る課題・工夫・関心等について、以下のことが明らかとなった。

1 学生の多様性に対応した教育実践

本調査研究により、介護過程の展開の教授・指導を取り巻く状況として、次の4つが判明した。

第一に、養成校には中学・高校を卒業したばかりの学生のほか、社会経験のある学生（社会人学生）や留学生など多様な学生が在学しており、学生によってアセスメント能力、理解力、文章力などに差が見られることである。

第二に、実習施設によって、介護過程展開の取り組み、指導内容及びその体制などに差が見られることである。

第三に、上記のような差を踏まえ、各養成校では学生の学修効果を高めるための工夫（例えば、身近な題材や独自に作成した事例を用いる、模擬カンファレンスを開催する、実習施設と事前に情報共有する等）をしていることである。そして、第四に、教員及び実習指導者等は、他の養成校で使用している教材、演習の事例等について興味・関心が高い（情報交換を望んでいる）ことである。

以上のことから、養成校の学生が多様化する中で、とりわけ介護過程展開の中核となるアセスメント能力のほか、理解力、文章力などを高める（一定水準の能力の涵養に資する）ための教授・指導方法や教材開発等の重要性が示唆された。今後は、養成校と実習施設の協力のもと、研究会や勉強会などを定期的で開催し、学生の学修効果を高めるための教授・指導方法（ブラッシュアップを含む）や教材開発（例えば、介護過程の展開様式（シート）の標準化など）に関する意見交換の場や、参考となる教材、演習の事例等について情報共有すること等が望まれる。

2 養成校と介護実習施設との連携

介護過程は介護実践の中で展開されていくため、介護実習において養成校と介護実習施設とが連携し、学生が介護過程を学び、身につけられるように指導することが非常に重要である。本調査研究において実施された調査において、養成校と介護実習施設の連携として様々な工夫をされていることがわかった。一方で実習中の指導を施設に任せきってしまう養成校（教員）も存在するようである。養成校と介護実習施設との教育的な連携を強化するために、以下の工夫が実施されていた。

第一に、養成校から実習施設へ、介護過程をどのように教えているのかという介護過程やケーススタディ（教授方法バージョンの教材等の授業内容や学習進度を資料化したもの）を介護実習指導者等へ配布し共有する。また、実習施設への出前講座の実施、実習指導者との懇談会等で、実習の反省、次年度の実習の調整、教育内容や介護過程の説明や介護過程の展開方法と様式使用方法を説明する機会を持つ。

第二に、実習施設から養成校へ、実習の反省や養成校への要望や課題など実習指導の実践報告を養成校にしたり、他施設と介護過程における実習指導についての課題や工夫の共有をする機会を持つたりする。

第三に、養成校と介護実習施設が実習中に協力をして、学生・介護実習施設（関係職種）・教員の三者による介護過程を指導するためのカンファレンスを実施する。

今後も学生が実践の中で介護過程を学び身につけることができるように、介護実習施設で介護過程の展開を指導する上での課題の解決に向けての取り組みや工夫、学生個々に応じた具体的な指導方法などの共有を図る必要がある。

3 今後の課題

介護過程は、実践的教育の科目である。それは、独自の知識体系に基づき系統的・組織的に行われるということから、介護福祉士の専門性を示す指標となっている。その意味で本調査研究は意義のあるものであった。上記1及び2で述べたように、本調査研究では、各養成校が学生の多様性に対応した教育実践に悩みながらも真剣に取り組んでおり、教授指導方法や教材の工夫や実習施設との連携について努力していることが明らかになった。しかし一方では、養成校の教員の実習指導に対する姿勢には格差が見られ、実習施設の指導者においても介護過程に対する理解や認識において格差があることがわかった。養成校の教員、施設の実習指導の課題については上記で述べたところであるが、今後の課題として以下の内容があげられる。

第一に、養成校の違いを越えた研修及び研究の必要性があげられる。今回、福祉系高等学校、専門学校、短大、大学、実習施設の実習指導者と、所属の枠を越えて一緒になって研修を受けることによって得られた成果は大きい。多様な視点で課題を解決する機会となったからである。今後も同様の研修や研究会等（例えば全国教職員研修会や日本介護福祉教育学会等）において枠を越えた対象を意識していくことが必要である。

第二に、資料「介護過程の教授と指導の事例」の活用があげられる。研修資料をもとに、介護過程に関する知識の共有や工夫事例を紹介する「介護過程の教授と指導の事例」を作成した（第Ⅱ部に掲載）。研修後のアンケート調査の結果から、資料の活用によって教員や実習指導者の個々の格差を埋めるための一材料となることが明らかになった。例えば、実習指導者養成研修や介護教員研修の資料として登用すれば、基本を押さえるための資料となるからである。これからの研修の一資料として活用できるのではないかと考えられる。

以上を踏まえ、今回得られた成果をもとに、介護福祉教育や研究に役立てていくことにより、今後の介護福祉士養成の専門性構築の一材料として活用することが期待できる。

事業実施機関

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

〒113-0033

東京都文京区本郷3-3-10 藤和シティコープ御茶ノ水2階

TEL. 03-3803-0471